市　　勢

1.　沿　　革　　－1－

2.　市　域　の　変　遷　　－2－

3.　人　　口　　－3－

4.　産業別就業者数（国勢調査）　　－6－

１．沿　　革

奈良が歴史の表舞台に登場するのは、元明天皇が和銅3年（西暦710年）に藤原京からこの地に都を遷したことに始まる。以来7代の天皇、70余年の間首都として栄え、天平文化の華を咲かせた。

しかし、延暦3年（784年）に桓武天皇が山城の長岡京に遷られると、政治都市であった平城京は荒廃した。ただ東大寺、興福寺などの諸寺や、藤原氏の氏神春日社は、その後も広大な荘園を手に入れ平安京の諸寺と対抗し、かつての平城京外京の地は、その門前町となって南都と呼ばれた。

治承4年（1180年）の平重衡の南都の焼き討ちにより、東大寺、興福寺など天平時代の仏教伽藍の多くは焼失したが、源頼朝が幕府を開いた後、東大寺、興福寺は再建され、堂々たる復興を見るに至った。

その後、豊臣秀吉の行った全国の検地と寺領整理により荘園制度は終止符を打ち、今まで指導的立場にあった東大寺や興福寺などの南都諸大寺の勢力は衰えた。秀吉の後を継いだ家康は奈良奉行を置いて管理し、産業の奨励にも努めたので製墨、奈良晒などが発展した。

明治4年の廃藩置県により奈良県が設置されたが、同9年堺県に合併され、さらに同14年には堺県が大阪府に合併されたため奈良もその所管となった。明治20年になって奈良県の再設置が認められ、奈良に県庁が置かれた。明治22年には町制がしかれ、同25年には奈良・大阪湊町間に鉄道が開通し、同28年には現在の奈良国立博物館が設置され、明治31年2月1日、人口29,986人で市制が施行された。

その後、明治42年には現在の奈良女子大学が創立され、奈良市は県都として政治、文化、交通の中心地として発展した。

本市は、戦後、日本文化のふるさととして多くの観光客を受け入れるようになり、奈良の持つ文化的、観光的価値を将来に生かしていく目的で、昭和25年には国際文化観光都市を宣言し近代都市を目指すとともに、隣接町村との合併を行い、観光都市としての性格を備える一方、京阪神のベッドタウンとして市西部や北部に近代的な住宅団地が次々と建設され、人口は急激に増加した。

市制100周年に当たる平成10年には、「古都奈良の文化財」として8資産群がユネスコの世界遺産に登録された。

また、平成14年4月1日には中核市に移行。さらに、平成17年4月1日には月ヶ瀬村、都祁村と合併し、面積276.84k㎡、人口37.3万人となり、令和3年4月1日現在、面積276.94 k㎡、人口35.4万人となっている。

2．市 域 の 変 遷

編入年月日	編　　入　　区　　域	面　　積 (km²)	人　口 (人)	世帯数 (世帯)
明31. 2. 1	奈良市制施行	1.52方里 (約23.44km²)	29,986	5,613
大12. 4. 1	添上郡佐保村	1.94方里 (約29.92km²)	44,418	9,158
昭14. 4. 1	添上郡東市村大字白毫寺	29.80	52,918	11,814
昭15.11. 3	生駒郡都跡村	39.52	59,434	13,335
昭26. 3.15	添上郡大安寺村・東市村、生駒郡平城村	68.50	89,432	21,045
昭30. 3.15	添上郡帯解町・明治村・辰市村・五ヶ谷村、生駒郡伏見町・富雄町	121.22	116,774	27,386
昭32. 9. 1	添上郡田原村・柳生村・大柳生村・東里村・狭川村	210.33	129,784	30,764
昭36.10. 5	（国土地理院公表）	211.91		
平元.11.10	国土地理院２万５千分の１地形図に基づく図上測定により改訂値公表	211.61		
平 4. 9. 1	（国土地理院修正値公表）	211.60		
平17. 4. 1	添上郡月ヶ瀬村、山辺郡都祁村	276.84	373,574	146,589
平26.10. 1	（国土地理院修正値公表）	276.94		
令 3. 4. 1現 在		276.94	354,287	165,360

東 端	月ヶ瀬石打	東経	136° 04′	東　　西 33．51km
西 端	二名六丁目	東経	135° 42′	
南 端	都祁吐山町	北緯	34° 33′	南　　北 22．22km
北 端	広　岡　町	北緯	34° 45′	
海 抜	最 高：都祁吐山町（貝ヶ平山） 最 低：池田町		822.0m 56.4m	

３．人　　口

(1)　世帯数及び人口の推移　　【市民課】

年次及び調査名	世帯数（世帯）	人口 総数（人）	人口 男（人）	人口 女（人）	1世帯平均（人）	人口増加率（%）	人口密度 1km²当たり（人）
明治31. 2.1 市制施行	5,613	29,986	15,297	14,689	5.34	－	1,279
大正 9.10.1 第1回国勢調査	8,737	40,301	20,270	20,031	4.61	34.4	1,724
14.10.1 第2回国勢調査	10,369	48,879	25,033	23,846	4.71	21.3	1,824
昭和 5.10.1 第3回国勢調査	11,336	52,784	26,195	26,589	4.66	8.0	1,970
10.10.1 第4回国勢調査	11,840	55,968	27,594	28,374	4.73	6.0	2,088
15.10.1 第5回国勢調査	12,332	57,273	27,477	29,796	4.64	2.3	1,922
20.11.1 人口調査	16,430	69,815	31,417	38,398	4.25	21.9	1,767
22.10.1 第6回臨時国勢調査	17,708	82,399	42,512	39,887	4.65	18.0	2,085
25.10.1 第7回国勢調査	17,487	77,866	38,097	39,769	4.45	△ 5.5	1,970
30.10.1 第8回国勢調査	25,552	115,674	55,322	60,352	4.53	48.6	954
35.10.1 第9回国勢調査	31,026	134,577	65,548	69,029	4.34	16.3	640
40.10.1 第10回国勢調査	40,738	160,641	77,865	82,776	3.94	19.4	758
45.10.1 第11回国勢調査	57,111	208,266	100,561	107,705	3.65	29.6	983
50.10.1 第12回国勢調査	73,651	257,538	124,773	132,765	3.50	23.7	1,215
55.10.1 第13回国勢調査	90,821	297,953	144,250	153,703	3.28	15.7	1,406
60.10.1 第14回国勢調査	100,798	327,702	157,989	169,713	3.25	10.0	1,546
平成 2.10.1 第15回国勢調査	112,990	349,349	167,310	182,039	3.09	6.6	1,651
7.10.1 第16回国勢調査	123,718	359,218	171,926	187,292	2.90	2.8	1,698
12.10.1 第17回国勢調査	133,774	366,185	173,652	192,533	2.74	1.9	1,731
17.10.1 第18回国勢調査	140,544	370,102	174,469	195,633	2.63	1.1	1,337
22.10.1 第19回国勢調査	147,421	366,591	171,410	195,181	2.49	△ 0.9	1,324
27.10.1 第20回国勢調査	148,920	360,310	167,899	192,411	2.42	△ 1.7	1,301
令和 3. 4.1 現在人口	165,360	354,287	166,035	188,252	2.14	△ 0.3	1,279

※令和3年4月1日現在人口における人口増加率は、対前年比である。

(2)　各地区別人口　　【市民課】

（令和3年4月1日現在）

地　区　名	世 帯 数（世帯）	人　口		
		総　　数（人）	男（人）	女（人）
鼓　阪　地　区	6,043	12,223	5,738	6,485
飛　鳥　　〃	6,241	12,738	5,925	6,813
済　美　　〃	9,357	18,518	8,762	9,756
椿　井　　〃	1,377	2,584	1,123	1,461
佐　保　　〃	8,318	16,597	7,693	8,904
大　宮　　〃	11,632	21,968	10,145	11,823
大安寺　　〃	5,030	10,788	5,150	5,638
都　跡　　〃	14,191	30,407	14,366	16,041
平　城　　〃	8,773	20,210	9,582	10,628
伏　見　　〃	14,210	29,900	14,071	15,829
あやめ池　〃	4,431	9,664	4,464	5,200
学　園　　〃	12,167	27,358	12,576	14,782
登美ヶ丘　〃	10,809	24,633	11,301	13,332
富　雄　　〃	23,557	54,391	25,490	28,901
神　功　　〃	2,301	5,161	2,439	2,722
右　京　　〃	2,453	4,864	2,203	2,661
朱　雀　　〃	2,820	6,523	3,058	3,465
左　京　　〃	2,460	6,025	2,862	3,163
辰　市　　〃	5,340	9,937	4,738	5,199
明　治　　〃	4,177	8,993	4,387	4,606
東　市　　〃	3,112	6,060	2,838	3,222
帯　解　　〃	1,384	2,975	1,400	1,575
精　華　　〃	324	705	326	379
田　原　　〃	741	1,579	768	811
柳　生　　〃	434	952	458	494
大柳生　　〃	391	835	368	467
東　里　　〃	337	695	354	341
狭　川　　〃	188	410	199	211
月ヶ瀬　　〃	480	1,301	621	680
都　祁　　〃	2,282	5,293	2,630	2,663
合　　計	165,360	354,287	166,035	188,252
（内、外国人）		(3,749)	(1,790)	(1,959)

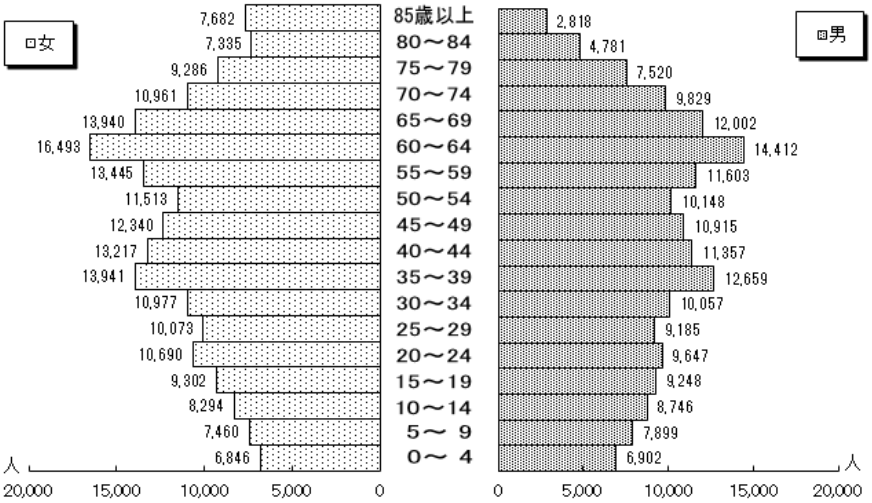
(3)　人口動態　　【市民課】

（各年末現在）

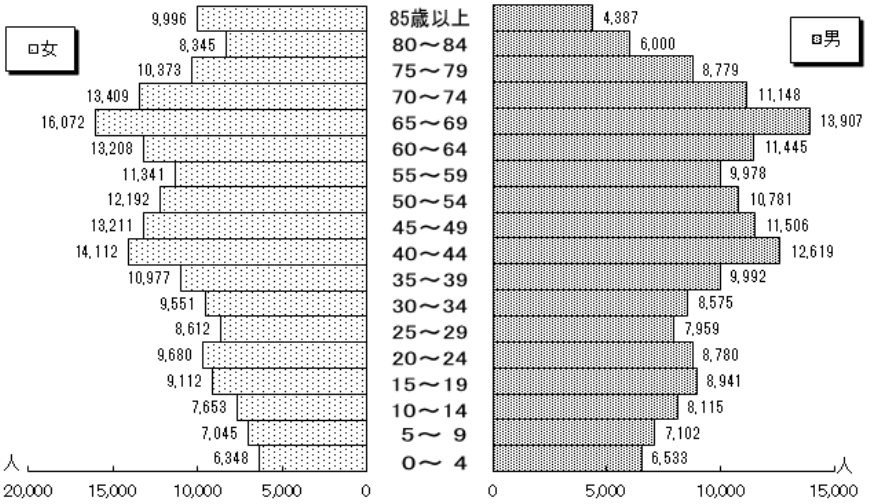
区分 ＼ 年次		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年（平成31年）	令和2年
自然動態	出生	2,440	2,331	2,335	2,174	2,079
	死亡	3,622	3,691	3,799	3,702	3,683
	増減	△ 1,182	△ 1,360	△ 1,464	△ 1,528	△ 1,604
社会動態	転入	12,649	12,661	12,318	12,670	11,926
	転出	12,822	12,940	12,581	12,278	11,635
	増減	△ 173	△ 279	△ 263	392	291
年間増減		△ 1,355	△ 1,639	△ 1,727	△ 1,136	△ 1,313

(4)　年齢別・男女別人口　　【総務課】

（平成22年国勢調査）



（平成27年国勢調査）



4．産業別就業者数（国勢調査）　【総務課】

区分 / 産業名		平成22年 就業者数	平成22年 構成比(%)	区分 / 産業名	平成27年 就業者数	平成27年 構成比(%)
第一次産業	1 農業	2,240	1.41	1 農林業	2,307	1.49
	2 漁業	4	0.00	2 漁業	1	0.00
小計		2,244	1.41	小計	2,308	1.49
第二次産業	3 鉱業	6	0.00	3 鉱業、採石業	3	0.00
	4 建設業	8,694	5.49	4 建設業	8,339	5.38
	5 製造業	19,815	12.51	5 製造業	19,454	12.54
小計		28,515	18.00	小計	27,796	17.92
第三次産業	6 電気・ガス・熱供給・水道業	863	0.54	6 電気・ガス・熱供給・水道業	819	0.53
	7 情報通信業	4,182	2.64	7 情報通信業	4,177	2.69
	8 運輸業、郵便業	6,166	3.89	8 運輸業、郵便業	5,785	3.73
	9 卸売・小売業	28,857	18.21	9 卸売・小売業	27,174	17.52
	10 金融・保険業	5,938	3.75	10 金融・保険業	5,547	3.58
	11 不動産業、物品賃貸業	4,371	2.76	11 不動産業、物品賃貸業	4,618	2.98
	12 学術研究、専門・技術サービス業	6,838	4.32	12 学術研究、専門・技術サービス業	6,649	4.29
	13 宿泊業、飲食サービス療	10,049	6.34	13 宿泊業、飲食サービス業	9,700	6.25
	14 生活関連サービス業、娯楽業	6,353	4.01	14 生活関連サービス業、娯楽業	6,177	3.98
	15 教育、学習支援業	11,029	6.96	15 教育、学習支援業	10,969	7.07
	16 医療、福祉	17,962	11.34	16 医療、福祉	21,120	13.62
	17 複合サービス業	745	0.47	17 複合サービス事業	1,038	0.67
	18 サービス業（他に分類されないもの）	9,146	5.77	18 サービス業（他に分類されないもの）	9,098	5.87
	19 公務（他に分類されないもの）	6,192	3.91	19 公務（他に分類されないもの）	6,358	4.10
小計		118,691	74.91	小計	119,229	76.88
分類不能の産業		8,994	5.68	分類不能の産業	5,756	3.71
合計		158,444	100.00	合計	155,089	100.00